



Peace Through Service

尾張旭ロータリークラブ Weekly

「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

・会長 井田 武憲
 ・幹事 桜井 雅博
 ・会報 古橋 裕志
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail: owariasahi@mtekihighohe.ne.jp
 URL: http://www.owariasahi-rc.jp/

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2046回 2013年2月22日(金) No. 1936

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「四つのテスト」

卓話者: 箕輪 良孝君

演 題: 「悠々のインド」

前 回 第2045回 2013年2月15日(金) 記 録

- 齊 唱: 「日の風も星も」
- ゲスト: 一般社団法人 尾張旭青年会議所
 理事長 秋田 智司様
 一般社団法人 尾張旭青年会議所
 副理事長 中川 克久様
- 出席者: 会員28名中22名出席 出席率78.57%
 前々回補正出席率は2月1日分 92.85%

立・民族対立etc)があり容易に解決できない面を挙げられ、元国連事務次長としての苦悩を提言されました。

フォーラムでは、討論形式で行われ、今までとは違ったIMになりました。また終了後には当クラブの新入会員歓迎会も設定されて和気あいあいとして時間を過ごすことができました。会員の皆さまお疲れ様でした。

会長あいさつ 井田 武憲

2月9日(土)名古屋マリオットアソシアホテルにて東尾張分区インターシティミーティングが名古屋城北RCのホストのもと催されました。

当日のスケジュールとしては、受付開始11時30分、友愛の広場にてランチタイム12時より13時30分。その後、第一部 式典、第二部 基調講演 第三部 フォーラム、第四部 次期ガバナー補佐並びに次期ホストクラブ紹介がありました。

第二部の基調講演では、元国際連合事務次長の明石 康氏が「平和とは」のテーマにて講演されました。

内容は多義にわたりましたが、国連の役割としての立場を話され、国家間の対立(例 戦争)は停戦とか休戦までは仲介できるが、国内紛争(内紛)についてはいろいろな問題点(宗教対

幹事報告

- ・2/9 第36回なわとび大会 於尾張旭市体育館 古橋エツ子新世代奉仕委員長、古橋裕志新世代奉仕副委員長出席。
- ・2/12 東尾張分区(11RC)会長、幹事会 於キャッスルプラザ 井田会長、桜井幹事出席。
- ・例会変更のお知らせ: 別紙。

尾張旭青年会議所表敬訪問



△秋田理事長あいさつ



△中川副理事長あいさつ

----- 識字率向上・OFDY月間 -----

	3月 1日 (金)	3月 8日 (金)	3月15日(金)	3月22日 (金)
例 会 予 定	卓話者: 森井 晴生君 演 題: 「私の元なる事々」	卓話担当者: OFDY委員会 卓話者: 大野 良之委員長 演 題: 「 未定 」	卓話担当者: 仲澤 昌容君 卓話者: 愛知県立大学・名古屋造形大学 非常勤講師 NPO法人やきもの文化と芸術振興協会理事長 浅田員由様 演 題: 「瀬戸やきもの」	卓話者: 木村玄次郎君 演 題: 「旭労災病院の改築に向けて」
3分間 スピーチ	丹羽 敏行君	谷口 伸夫君	大竹 薫君	富田 晃君

委嘱状



△（左）2013～2014年度地区山田米山記念奨学会委員
（右）2013～2014年度地区補助金委員会委員

米山功労者表彰



△（右）第一回表彰 古橋 裕志君

ニコボックス

○一般社団法人 尾張旭青年会議所 理事長 秋田 智司様、同専務理事 中川 克久様、よくいらっしやいました。よろしくお願いいたします。

井田 武憲君、加藤 清久君、木村玄次郎君
福岡 健君、舟橋 龍秀君、古橋エツ子君
古橋 裕志君、森井 晴生君、山田 直樹君

○本日卓話をさせていただきます。 富田 晃君

○先日の10日、次女の結婚式を無事終えることができました。 唐井 仁一君

○インドの旅、夜行列車で人生体験、楽しく過ごさせていただきました。等級の差額、ニコボックスへ

加藤 清久君

○先日は、盛大な歓迎会をありがとうございました。一回しかないのがとても残念。 仲澤 昌容君

○ようやく春めいてきました。花粉症の季節になりました。何となくゆうつつです。 伊豆原浩二君

○大変おいしく楽しい時間でした。

新入会員歓迎会参加一同

○仕事の都合で早退させていただきます。

浅野 善吉君、飯田 幸雄君、山田 直樹君

卓 話

「雑 話」

富田 晃

あまり良いお話はできませんが、新しく入会された方達のために、私の若いころをたどってみます。昭和6年11月11日に今の韓国で生まれました。

小作人の親方の家で、元気が良すぎて悪いことばかりし、皆に心配ばかりかけながら育ちました。それでも大変運が良い子どもでした。7人兄弟の長男として親の厳しくもあり優しくあるも心に育くまれ、昭和20年8月京城の中学2年の時、日本の名古屋の中学へ7人

が転入試験を受け、2人が運よく入学できました。終戦直後の日本での生活はつらい毎日、5円の月謝が払えず、親に苦



労をかけました。よく子どもは親の晩年を面倒見なければいけないと言いますが、親の愛情で育てられて大きくなるのだから当たり前の事だと思います。今思い返してみると、韓国は30数年の日本の植民地でしたが、その間日本のおかげで、学校を建て、熱心な教育に取り組み韓国の子も達を指導してきました。そのおかげで、たいへん優しい国民に育ちました。食べ物の無い人に声をかけ、自分の食べ物を分けて与えていました。日本人のひかえめで、おくゆかしい面が伝わったのでしょうか。

韓国も北朝鮮も台湾も中国もみんな仲良く平和に生きなければなりません。そんなことを願うこのごろです。

職業を通じた活動



「職業奉仕」という言葉は耳慣れないと思いますが、ロータリアンたちが一番大切にしていること、それが「職業奉仕」です。

ロータリークラブは、企業経営者、専門職といった職業人の集まりです。会員は、それぞれの職業を代表してクラブに入会します。したがって、会員候補者は、その時点で既にその職業において高い見識と業績を積み上げてきていますが、そういった人々が集まって切磋琢磨し、さらに職業倫理の向上に努める、というのが、ロータリーにおける職業奉仕の基本です。

また、自らの企業や専門職に関する知識や技術の向上と発展、顧客満足、従業員やその家族に対しての責任、社会に対する責任など、例会をはじめとするさまざまな会合ならびに奉仕活動を通して互いに学び合い、自らの職業において実践すること、これも職業奉仕です。

「四つのテスト」は、ハーバート・テラーというアメリカのロータリアンが、ある企業の再建を引き受けたときに考えた企業の倫理的指針です。彼は、これによって見事にその企業の再建を果たしました。それ以来、ロータリアンたちに職業倫理の指針として広く愛用されています。

さらに、職業奉仕には、自らの職業や職業における専門知識を通して、地域社会や国際社会に貢献するという考えも含まれています。ロータリージャパンより一